

山口県文書館Web古文書 第6週(解答編)

中世の古文書 2

—大内氏の文書—

史料 1

「大内政弘書状」(右田毛利家文書1・7)

七月八日備中国^(児島郡)下津井、

八月四日摂州越清水、^(武庫郡)同

十七日板見、^(川辺郡)九月五日帝都

敵陣構賀茂面、去四日

北小路室町、於彼所々合戦

之時、御手人々太刀討・分捕

被疵之条、承候了、尤喜悅

之至候、恐々謹言、

^(応仁元年一四六七年)

十月十日 政弘(花押)

^(弘氏カ)
天野讚岐守殿

七月八日備中国下津井(しもついで)、八月四日摂州越清水(こしみず)、同十七日板見(いたみ)、九月五日帝都の敵、陣を賀茂面(おもて)に構う。去んぬる四日北小路室町、かの所々において合戦の時、御手の人々太刀討、分捕(ぶんどり)、疵を蒙るの条、うけたまわり候おわんぬ。もつとも喜悅の至りに候。恐々謹言。

●概要

大内政弘(二四四六〜九五)が、応仁・文明の乱に参戦するため上洛した際に、従軍した天野讚岐守(安芸国賀茂郡志和東(現、東広島市)を本拠とする有力国衆)配下の者が各地の合戦で戦功をあげたことを賞した。天野氏に加わった軍勢は、備中国下津井(現、岡山県倉敷市)、摂津国越清水(現、兵庫県西宮市)、板見(現、大阪府伊丹市)を経て入京し、賀茂方面や北小路室町で戦った。大内勢の上洛戦は、敵方である東軍の総大将・細川氏の勢力範囲を正面から突破してのものであったことがわかる。

●現代語訳

七月八日に備中国下津井、八月四日に摂津国越清水、同月十七日に板見、九月五日に帝都の敵が賀茂方面に陣取、十月四日に北小路室町、以上の各所において合戦をした時、御家来衆が太刀で戦い、敵の頸を取り、あるいは負傷した、ということをつけたまわった。喜ばしいことはこのうえない。

史料2

「大内義興書状」(右田毛利家文書1・16)

去月廿四日於船岡山合戦之時、

被摧手候、御忠節無比類候、

仍以 御内書被成 御感候、殊

受領事被仰出候、御面目之

至候、弥御馳走、併可為肝要候、

恐々謹言、

(永正八年〓一五二一年)

九月十七日

義興(花押)

(興次)
天野讃岐守殿

去月廿四日船岡山において合戦の時、
手を摧(くだ)かれ候。御忠節比類な
く候。よって御内書(こ)ないしよ)を
もって御感(ぎよかん)をなされ候。
ことに受領(ずりよう)の事仰せ出だ
され候。御面目の至りに候。いよいよ
御馳走、しかしながら肝要たるべく
候。恐々謹言。

●概要

大内義興(二四七七〜一五二八)が、天野興次(安芸国賀茂郡志和東(現、東広島市)を本拠とする有力国衆)の船岡山合戦における戦功を賞した將軍足利義植(よしたね、一四六六〜一五二三)の「御内書」(室町將軍の花押が据えられた書状形式の公的内容を持つ文書)に副えて出した文書。この合戦に対する褒賞として天野興次に与えられた受領(国司の最上位。一般的には国守)は、具体的には宛所で使われている「讃岐守」。船岡山合戦は、永正八年(一五二一)八月十六日にいったん京都を追われた大内軍を主力とする義植勢が、同月二十四日に、丹波からの街道の洛中への出入り口にあたる船岡山(現、京都市北区)で前將軍義澄方と激突し、多くの犠牲を払いながらも勝利し、京都を奪還した戦い。彼らにとっては、天下分け目の戦いだった。

●現代語訳

去月二十四日の船岡山合戦の時にあれこれと手を尽くされた。その働きは立派である。そのため公方様(將軍義植)があなただを褒める文書を出された。特に官職を授けると仰ったのは面目(このうえない)。これからも奉公を励まれることが大切である。

史料3

「大内義隆預ケ状」(宍戸家文書1・2)

芸州佐東郡阿那村

式百七拾四貫文 伴五郎跡 事、
坪付別紙在之

所預置之状如件、

(一五四四年)

天文十二年四月十六日

(大内義隆)
大宰大式(花押)

(元源)
宍戸安芸守殿

芸州佐東郡阿那(あな) 村式百七拾四貫文(伴(とも)五郎跡、坪付別紙これあり)の事、預け置くところの状、くだんの(ごと)し。

●概要

大内義隆(一五〇七〜五二)が、宍戸元源(安芸国高田郡甲立荘(現、広島県安芸高田市)を本拠とする有力国衆)に安芸国佐東郡阿那村(現、広島県安芸太田町)内の土地を預けた文書。この土地は安芸武田氏の一族である伴氏が持っていた土地で、貫高(土地の面積や年貢の量を錢に換算して表示したもの)は二百七十四貫文であった。この文書には「坪付」と呼ばれる田地の具体的な所在地・面積・状況などを記した附属文書がついていたが、今は残されていない。なお、大宰大式(だざいのだいに)は、古代、九州を統括するために筑前国(現、福岡県)に置かれた機関である大宰府のNo.2の役職。

●現代語訳

安芸国佐東郡阿那村の二百七十四貫文の土地(もと伴五郎の所有で、具体的な場所等は別紙に書いてある)をあなたに預ける。